

# 子どもが輝く新発田の教育

～子どもの夢や希望を育む教育の推進～

地域の  
特色ある  
活動

## 新潟県新発田市教育委員会

### 1 はじめに

新発田市は新潟県の北部に位置する県北の中核都市であり、江戸時代まで新発田藩十万石の



城下町として繁栄した歴史をもっています。現在も、その風情と文化が色濃く残る城下町です。北西部には白砂青松と形容される美しい海岸線が広がり、南東部の山岳地帯には日本一小さな山脈、櫛形山脈や、日本 200 名山に数えられる霊峰、二王子岳など豊かな自然に囲まれています。

### 2 学力の向上の取組

当教育委員会では、学校訪問の実施や職員研修の充実をサポートし、教員の指導力の向上



を図り、児童生徒の学ぶ意欲を喚起し、「分かる授業」を実践しています。

#### (1) 「新発田市授業スタンダード」の作成・活用

平成 28 年度、「新発田市授業スタンダード」(市教委作成のリーフレット)を作成し、全小中学校に配付しました。「スタンダード」では、①つかむ段階、②考えをもつ段階、③考えを深める・広げる段階、④まとめる段階、という基本授業過程を示し、「めあて」と「まとめ」の板書は、共通取組事項としま

した。さらに、それぞれの段階でのポイントや具体的な手だてを 1 ページずつにまとめて記載してあります。

校内研修での活用はもとより、日々の授業づくりにも生かし、どの学校、どの教員も児童生徒の学ぶ意欲を喚起し、「分かる授業」を実践できるようにしています。

#### (2) 中学校数学専門指導主事の配置

中学校では、特に数学の授業改善を目指し、市独自で雇用する数学専門の指導主事が年間(年間 100 回以上の学校訪問を実施)を通じて重点的に指導に当たっています。

### 3 新発田の特色ある教育活動(三本柱)

#### (1) 日本語教育「教科 日本語」

いじめや不登校、問題行動の減少、コミュニケーション能力の育成等を図るため、当市では平成 21 年から、教科「日本語」を新設し、日本語教育を進めています。平成 23 年度には、当市が独自に作成した「日本語」の教科書を一部改訂するとともに、「日本語教育 単元・題材一覧表 単元指導計画」を作成し、全小中学校で実践し、日本語の授業改善を図っています。

#### (2) 人権教育、同和教育

部落差別問題(同和問題)は、人類普遍の原理である人間の自由と平等に関する問題であり、その解決は国民的課題であるとともに全市民的な課題です。部落差別の解消には、正しい同和教育と積極的な啓発が重要な役割を担っています。

当教育委員会では、毎年、「同和教育指定研究委託」事業として、2 年次計画で研究委託をし、市内の同和教育授業の充実を図って

います。

今年度から、当教育委員会では「新発田市同和教育データベース」を作成し、どの学校でも質の高い同和教育が実践できるようにしています。

### (3) 食育（食とみどりの新発田っ子プラン）

市内の全小中学校において学校と家庭・地域が連携して、「育てる（栽培）」「作る（料理）」「食べる」「返す（リサイクル）」という「豊かな大地を基盤とした食のサイクル」に基づいた新発田市オリジナルの食育プラン「食とみどりの新発田っ子プラン」に取り組み、子どもたちの「生きる力」を育てています。

具体的には、稲作体験や野菜作り、調理実習での豆腐づくりや小煮物づくりなどを通した「食のサイクルに基づく食育」の実践や「弁当の日」の取組などを行っています。

また、当市では「食育」が目指す子ども像として、「小学6年生で『一人で弁当を作ることができる子ども』」「中学3年生で『一人で郷土料理である小煮物（のっぺ）のある夕食1食分を作れる子ども』」という具体的な目標を定め取り組んでいます。



## 4 社会教育の取組

### (1) 土曜学習の取組

当市では、平成27年度から生涯学習施策の中で、公民館土曜学習モデル事業として、「七社塾」を開設し、土曜学習をスタートさせました。新発田市の土曜学習は、単に地区公民館での補習的な学習ということではなく、中学生の家庭学習の習慣化につながるよう、学校とも連携しながら取り組み、児童生徒の学力を向上させることを目的としています。

土曜学習は、毎週土曜日の午後、講師として地域の教員経験者や大学生、塾講師などの方々にご協力いただき実施しています。

土曜学習が「地域連携」のモデルとなり、児童生徒の学力の向上とともに、「地域の活性化」につながることも期待しています。

順次対象地区を拡大し、現在4カ所の会場

で実施しています。

### (2) あかたにの家の取組

平成26年度末に閉校した赤谷小学校校舎をリニューアルし、平成28年7月青少年宿泊施設「あかたにの家」がオープンしました。今、社会で求められているコミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、創造力等を育てるために、大いに活用されることを期待しています。

この「あかたにの家」では、可能な限り周辺の自然や施設、地域の人材を活用した活動プログラムを用意しています。

また、「あかたにの家」のもう一つの特徴は、防災教育の拠点としての位置付けです。東日本大震災、熊本地震の発生を受け防災教育の重要性が改めて指摘されています。新潟県防災教育プログラムに基づいた実践が進む中、学校での防災教育とともに非常時にどのような行動を取るべきかを実践的に学ぶ活動や避難所生活を体験できる防災教育の拠点としても活用できるようにしています。

平成29年度からは、小学校全21校が「あかたにの家」を活用し、防災教育をはじめ様々な体験活動に取り組んでいきます。

## 5 おわりに

新発田市では、将来都市像である「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」の実現に向け、「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」を3つの視点として、まちづくりに取り組んでいます。

当市の将来を担う子どもたちに「生きる力」を育てるには、教育環境の充実と教育内容の質的向上に加え、学校・家庭・地域が連携した教育を推進することにより、学力向上と豊かな心、健やかな体を育成することが重要です。そのために今後も、「子どもが輝く新発田の教育」を基本方針として、「教育の充実」に取り組んでいきます。



教育長  
大山康一